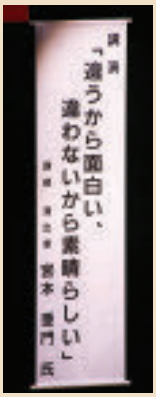
香川県高等学校PTA連合会

香川県高P連だより 第5号

平成28年10月1日発行　発行・編集／香川県高等学校PTA連合会事務局　高松市西内町7番11号　香川県高等学校PTA会館内
TEL.087-851-4614　FAX.087-851-4628　E-mail:info@kagawa-koupren.com　URL;http://kagawa-koupren.com/

第58回 中国・四国地区高等学校PTA連合会大会
香川大会開催 特集号



大会テーマ
発信! PTAとふるさとのソコヂカラ
～空と海　オリーブのくにから～ を掲げて開催

7月15日（金）、高松市のレクザムホールにて、「発信！　PTAとふるさとのソコヂカラ～空と海　オリーブのくにから～」のテーマのもと、香川大会を開催いたしました。

香川県より802名、中国・四国地区各県より1,116名、総勢1,918名の多くのご参加をいただきました。参加された会員の皆様に深く御礼申し上げます。

大会の開会行事では、中国・四国地区高P連会長と香川県教育長の手話通訳を県立三木高校ボランティア同好会の生徒2名が行いました。高校生らしい爽やかな手話通訳であり、日頃の手話学習の成果を発揮しました。

講演は、本県にゆかりのある、演出家　宮本亜門氏に「違うから面白い、違わないから素晴らしい」の演題でご講演いただきました。他の子どもと違う趣味を冷やかされたことをきっかけに、引きこもりがちになった自身の経験を紹介し、背中を押してくれる人との出会いにより「違う意見や視点があっていい。そう思えることで小さな自信が芽生えてきた。人生は舞台。自分で脚本を書き、演出するもの。人と違うことを恐れず、目的に向かって今生きていることを楽しんでほしい。」と呼びかけられました。

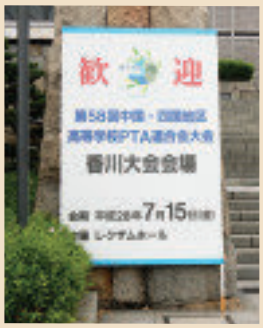
午後からの研究協議では、岡山県・高知県・香川県よりご発表いただきました。各校における熱心な取り組みや活動発表に終始し、大変意義ある協議となりました。

高校生による発表では、県立琴平高校なぎなた部による「リズムなぎなた」、坂出第一高校食物科料理研究部による「料理パフォーマンス」、県立高松商業高校書道部による「書道パフォーマンス」を披露しました。

また、農業科の高校生による生産品販売も大盛況で、それぞれの生徒が高校生のソコヂカラを存分に発揮しました。

閉会行事では、中国・四国地区高P連会長のあいさつの後、来年の開催県となる山口県高P連会長の歓迎のあいさつで大会は幕を閉じました。

皆様のご厚意とご協力により、滞りなく大会の進行ができましたこと、そして香川大会を成功に導いてくださいましたことに感謝とお礼を申し上げます。



目次

特集 中国・四国地区高P連大会香川大会開催 ……1
大会報告（感想）……2
大会を終えて（スタッフの声）……3
会長あいさつ ……4
平成28年度香川県高等学校PTA活動推進功労者表彰式及び総会
一般財団法人香川県高等学校教育振興会定時評議員会 ……4
PTA活動紹介 ……5
三本松高校、坂出商業高校
第66回全国高P連大会千葉大会報告 …6
PTA NEWS ……6

第58回中国・四国地区高等学校PTA連合会大会　香川大会開催　特集号

大会報告 感想

開会行事

小林康則大会実行副委員長の開会のことばの後、国歌斉唱に続き、中国・四国地区高等学校ＰＴＡ連合会　泉　満会長(香川県高Ｐ連会長)より、大会テーマ「発信！ＰＴＡとふるさとのソコヂカラ　～空と海　オリーブのくにから～」に込められた想いに触れた歓迎のあいさつがありました。

一般社団法人全国高等学校ＰＴＡ連合会　佐野元彦会長からは「人工知能・高度情報社会化などで目まぐるしく変わっていく環境の中で、将来を担える子どもたちに成長してほしい」との挨拶がありました。続いて、香川県教育委員会　西原義一教育長による挨拶のあと、来賓として臨席いただいた、浜田恵造香川県知事、大西秀人高松市長から祝辞をいただきました。

高校生による手話通訳（中国・四国地区高Ｐ連会長と香川県教育長のあいさつ）は、中四国大会では初めての試みでした。高校生の懸命な、そして堂々とした姿に心打たれました。

研究協議

研究協議は、山口県公立高等学校PTA連合会一柳大志副会長、香川県高等学校PTA連合会小林康則前副会長の両氏を議長に、三つの実践・研究発表がありました。

まず、岡山県立井原高等学校岡本健博PTA会長から、「学校教育とPTA」～地域で織り成すふれ愛まつり～という題で、普通科と専門科が統合されてできた学校の特色や地元行事などの紹介の後に、PTAによる「井原高校ふれ愛まつり」への模擬店の出店とPTA広報誌「BLOOM」の発行が、学校の教育活動と地域の伝統行事を支えているという特徴的なPTA活動について発表がありました。

次に、高知県立高知工業高等学校濵渦教邦PTA会長から、「社会に求められる人づくり」～探究型人材育成とPTA活動～と題して、保護者向け進路・進学説明会やPTA・同窓生による模擬面接などの進路指導に関するPTA活動の紹介とあわせて、高知工科大学の協力を得ながらキャリア教育の視点を取り入れた探求型人材育成（イノベーションKT）のプログラム開発とその取り組みについて発表がありました。

最後に、開催県を代表して香川県立琴平高等学校村岡善邦PTA会長から、「被災地交流を通して」と題して、生徒のボランティア活動をまとめた「琴高ボランティアヒストリー」のビデオ紹介があり、その活動の一つである阪神・淡路大震災をきっかけに結成され、東日本大震災、熊本地震の各被災地の人との交流を行う「とらすとＫ（Ｋ＝神戸と琴平、とらすと＝信頼）」の活動とPTAの協力について発表がありました。

それぞれの発表は、地域や学校の特性を生かした興味深い内容であり、発表後には活発な質疑応答が行われ、大変有意義な研究協議となりました。

（大会プログラム）

9:00	9:45	10:30	12:00	13:00	14:40	15:45	16:00
受付	開会行事	講演 90分	昼食 60分	研究協議 90分	高校生による発表 60分	閉会行事	

講　演

違うから面白い、違わないから素晴らしい

演出家 宮本 亜門 氏

様々な講師の先生の講演を聞いて、いつも感銘を受けますが、宮本亜門先生の講演は格別でした。今までの自分自身の生き方から気づいたことをお話いただいたのですが、ご自身が演出家ということもあり、語り方が一人芝居を見ているような光景で、すべての情景が映し出されるようで、からだの中にスーッと入っていく感覚でした。

少し人とは変わった少年が信念を通して成長したこと、またみんなの意見を聞きながら、より良いものを作る姿勢、最後に命の尊さなど、あっという間の90分間でした。

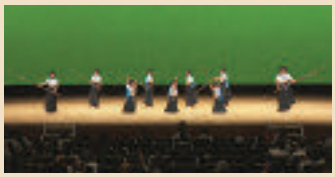
この素晴らしい講演を拝聴させていただき、幸せな時間を亜門さんと参加者の皆さんと共有できたことを感謝いたします。

高校生による発表

高校生による発表は、県立琴平高校なぎなた部の音楽に合わせた一糸乱れぬ「リズムなぎなた」の演技で幕を開けました。続いて、坂出第一高校食物科料理研究部の見事な包丁さばきをみせた「料理パフォーマンス」、最後は県立高松商業高校書道部の躍動感あふれる「書道パフォーマンス」が披露されました。

県内のそれぞれの部を代表する三校の発表は参加者全員に大きな驚きと感動の波を広げました。

高校生による発表



（琴平高校）

（高松商業高校）

（坂出第一高校）

閉会行事

高校生の感動的な発表も終わり、いよいよ閉会行事となりました。

まず、中国・四国地区高Ｐ連　泉　満会長より参加者に対し感謝のことばと来年度の山口大会成功に向けたエールが送られました。

続いて、高杉晋作が創設した「奇兵隊」の応援団が登場し、山口県高Ｐ連板谷正会長が山口県の紹介を始め、次期大会への参加を呼びかけました。

最後に林　周二大会実行副委員長の閉式のことばで香川大会が終了しました。

今大会において、テーマでもあった「ふるさと“香川”のソコヂカラ」を参加者の皆さんに伝えることが出来た素晴しい大会であったと思います。そしてその感動、想いを香川県から次期開催の山口県へと渡せた大会となりました。

大会を終えて（スタッフの声）

式典部

式典部門は緊張する業務でしたが、リハーサルを経て、本番は順調に運営できたと思います。周到に準備された運営マニュアルと、それを十分に理解されて業務に当たられた各担当校のPTA役員のチームワークに支えられ、舞台転換や登壇者誘導の遅延もなく式典を進行できました。さらに講師の宮本氏との会話も楽しい行事でした。

舞台転換

舞台進行（舞台袖）

研究協議部

他県のPTA活動の取り組みを間近に見ることができ、非常に興味深く感じました。

また、控室で発表者の方々とお会いして、生の声を伺えたのは役得でした。準備や当日の業務を通して、役員同士の絆も深まったように思います。それぞれのパートで、各校の皆さんが「おもてなしの心」を持って対応し、会場全体が温かい雰囲気に包まれた一日でした。

受付部

昨年の岡山大会をお手本に、四国八十八か所の「お接待」の精神でスタッフ参加させていただきました。閉会後お見送りの際には多くの方から「ありがとう」と声をかけていただき、私自身とても貴重な経験をさせていただいた事に改めて気が付きました。

また、生徒達の発表に送られた皆様からの惜しみない拍手は彼らの大きな糧になることでしょう。開催県の保護者の一人としてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

来年開催されます山口大会のご盛会を心よりお祈り申し上げます。

笑顔でお迎え

受付部（弁当配布）

関係者を含む約2,000名近くのお弁当の配布は最初どうなることかと思っていましたが、スタッフの皆さんのお陰でとてもスムースに行うことができました。

お弁当は事前に試食会を行い、内容を吟味した甲斐あって、中四国から集まったPTAの皆様には大好評でした。お弁当の空き箱を返しに来られた時に、「ごちそうさま、とても美味しかったです！」と言っていただけてうれしく思いました。

弁当配布準備

配布開始

接待部

ご来賓・大会役員より、「瀬戸内海が一望できる素晴らしい会場での開催、本当に感激しました。また、大会スタッフ皆様のおかげで、複雑な会場の移動もスムースにでき、感謝しております。」と、お言葉をいただきました。

来賓誘導スタンバイ（楽屋裏）

会場部

JR高松駅、ことでん高松築港駅、貸切バス臨時駐車場、水城通り等あらゆる場所で、多くのPTAの方々が「おはようございます」と、大きな声で来場者を迎え、ホール内への案内と誘導を行いました。開会後はすぐさま会場設営等の任務をこなし、ゆっくりと聴講する暇もなく、閉会が迫ると慌ただしく見送りの準備をしました。その全てが誰の指示でもなく自ら率先して行動されていました。

香川のPTAのソコヂカラが発揮できた素晴らしい大会であったと思います。

会場への案内・誘導

心を込めてお見送り

広報記録部

広報記録部は、進行内容・時間等の記録と、記録写真の撮影を担当しました。各場面で参加者とスタッフの笑顔に触れることができ、温かい気持ちになりました。

香川大会に参加させていただき、全てを通して印象に残ったのは３校の生徒たちが披露した、高校生による発表でした。真剣に取り組むその眼差しと姿勢は、わが子でなくとも応援してしまうほどの本気度が伝わってきました。

そして、改めて未来を担う子どもたちのため、我々保護者が今出来ることをPTAが一丸となり、より良い明日のために頑張っていこうと思いました。

写真撮影に応じる会場係

（石田高校）

（農業経営高校）　高校生の生産品販売　（笠田高校）

大会事務局より

本県高Ｐ連が主管となり、９年に一度の中国・四国地区高等学校ＰＴＡ連合会大会を香川県で開催し、過去最多となる１，９１８名の皆様方の参加をいただきました。

終了後には、参加された中国・四国地区の皆様や役員の方々から「心のこもったおもてなし、ありがとう。」「本当に楽しく、内容も素晴らしかった」「高校生のバラエティに富む発表に感動し、時間が過ぎるのも忘れてしまった。」との称賛の言葉をいただきました。

この言葉は、安堵の気持ちと同時に香川大会の成功をも確信させるものでした。これも、ひとえに担当部会の部長、副部長を中心としたスタッフの皆様方が各々役割分担に責任を持ち、スムースな大会運営に一致結束し取り組んでいただいたお蔭であると思っています。

今大会が参加者の皆様方より高い評価を得て、大成功裡に無事終えることができたのも、ピンクのポロシャツを着て汗だくになりながら「おもてなし」の気持ちに徹していただいた約１８０名のスタッフの皆様方のご協力の賜です。本当に頭の下がる思いで、心からお礼申し上げます。

最後に、香川大会の開催に当たりご協力、ご支援いただきました加盟各校、会員の皆様、そして、陰ながらご尽力いただいたすべての皆様、本当に有難うございました。

今後とも、本県高Ｐ連へのご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

（井上）

会長あいさつ

香川県高等学校PTA連合会
会長　泉　満

本年6月10日の総会でご承認いただき、5期目の会長職を務めることになりました。会員の皆様のご支援ご理解に改めてお礼を申し上げるとともに高P連のさらなる飛躍をめざし新たな執行体制のもと、皆様とともに力強く前進したいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、核家族化や少子化が進み社会のあり方が大きく変わりつつある中で、家庭や地域社会の教育力低下が指摘されています。家庭教育とは「親が子どもに家庭内で言葉や生活習慣、コミュニケーションなど生きていくうえで必要なライフスキルを身につける援助をすること」と言われています。今日、社会状況や生活環境も私たちが育った時代とは大きく変化しています。子どもたちに「何をどう伝えていけばいいのか？」、これからも取り組まなければならない課題ではないでしょうか。

「子どもはまさに社会を映し出す鏡」と言われますが、残念なことに子どもたちの社会的迷惑行為が多く報道されています。規範意識や倫理観、忍耐力の低下や地域社会における対人関係の希薄化など、状況はあまりよいとは言えないのではないかと思います。残念ながら子どもたちを犯罪に誘い込むような大人社会のモラル低下も大きな問題で、努力してもなかなか解決できないという現実もあります。このような時代だからこそ「すべての子どもたちに生きる力を身につけさせる」「子どもの健全な成長を図る」という学校教育とPTAの目的がますます重要になってきていると思います。

今、子どもたちを取り巻く環境は厳しいと言わざるを得ません。不透明な経済、自然災害などによる将来への不安、SNS問題、薬物乱用、虐待、ネットいじめ、貧困による教育機会の不平等など解決を急がれている問題は山積しています。しかし、続いた震災では多くの高校生がボランティアで活躍し「自分たちが社会から必要とされている」ことを感じその想いを共有したと思います。高校時代という人生の最も多感な時期に子どもたちが何に悩み、何を欲しているのかをPTA活動を通してともに語りともに学べればと思っています。そのためにも各校のPTA活動での取り組みを大切にして、高P連として情報の共有化を図りながら子どもたちの健全な育成のためにともに行動し努力していきたいと考えています。皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

お知らせ

平成28年度全国高P連定時総会において、本県泉　満会長が中国・四国地区を代表して「全国高P連理事」に、さらに「健全育成委員会委員長」に選出されました。香川県高P連、中国・四国地区高P連と並行して、全国高P連の活動も担われますが、幅広い活躍を期待しております。

平成28年度 香川県高等学校PTA活動推進功労者表彰式及び高P連総会 一般財団法人香川県高等学校教育振興会定時評議員会

6月10日、レクザムホールにおいて、平成28年度PTA活動推進功労者表彰式、香川県高等学校PTA連合会総会及び一般財団法人香川県高等学校教育振興会定時評議員会が開催されました。

表彰式では、西原県教育長を始め、県教育委員会、関係団体等のご来賓のご臨席をいただきました。今回退任されたPTA活動推進功労者として、表彰状33名、感謝状48名、県連本部功労者6名が受賞され、泉　満会長から賞状と記念品が贈られました。来賓祝辞のあと、受賞者を代表して香川中央高校PTA会長であり、本会副会長であった小林康則様が謝辞を述べて式は終了しました。

高P連総会においては、
○27年度事業報告
○27年度収支決算、監査報告
○28年度事業計画案
○28年度収支予算案
○28年度役員の選任
○第58回中四国地区高P連大会（香川大会）について
○第66回全国高P連大会（千葉大会）について

の議案について、本会役員より説明・報告の後、審議され全議案が承認されました。

なお、第58回中国・四国地区高P連大会香川大会については、開催まであと1ケ月に迫り、出演される各学校に準備・練習に対するお礼と感謝を申し上げました。さらに、各部別名簿を提示し、大会当日はその方々を中心に総勢約180名のスタッフにより運営していくこと、来る6月28日に、「代表責任者打ち合わせ会」を開催し、任務についての最終確認を行い、県下PTAのチカラを結集し参加者の皆様を万全の態勢でお迎えすることを再度お願いしました。

続いて、教育振興会定時評議員会においては、
○27年度事業報告
○27年度収支決算、監査報告
○理事及び監事の任期満了に伴う改選

の3議案が滞りなく議了したのち報告事項に移りました。
○28年度事業計画
○28年度収支予算
○公益事業について

以上をもって会は終了しました。

役員名簿　平成28年度　一般財団法人香川県高等学校教育振興会

役職名	氏　名	所属校等	所属高校等役職名
理事長	泉　満	高松南	顧問
常務理事	井上　直樹	振興会事務局	事務局長
理事	竹内　秀夫	丸亀	校長
	中筋　政人	高松商業	校長
	高井　信一	観音寺第一	校長
	中條　敏雄	高松第一	校長
	小野　眞澄	大手前	校長
監事	藤野　譲二	高松工芸	会長
	大西　浩	丸亀城西	会長

役員名簿　平成28年度　香川県高等学校PTA連合会

役職名	氏　名	所属PTA	単P等職名
会長	泉　満	高松南	顧問
副会長	川北　繁伸	三本松	会長
	川西　健雄	香川中央	会長
	竹内　秀夫	丸亀	校長
理事	吉田　重隆	石田	校長
	溝渕　祥民	高松	校長
	村上　直樹	高松西	会長
	植田　昌和	坂出工業	会長
	谷畑　佳邦	善通寺第一	会長

役職名	氏　名	所属PTA	単P等職名
理事	高井　信一	観音寺第一	校長
	合田　貴憲	観音寺中央	会長
	栗林　哲	坂出第一	校長
	小野　眞澄	大手前	校長
	竹内　伸	聾	校長
常務理事	井上　直樹	高P連事務局	事務局長
監事	藤野　譲二	高松工芸	会長
	大西　浩	丸亀城西	会長
顧問	綾田　福雄	元高P連会長（大手前高松）	顧問

PTA活動紹介

三本松高校

本校は、今年度創立百十六周年を迎えました。南原繁先生の母校、伝統ある三高に入学できたことを生徒それぞれが誇りに思い、文武両道の高校生活を楽しんでいる姿が目にとまります。

春の虎丸登山や体育祭、総体や文化祭など、子どもたちとのかかわりを密にしようと行事に足を運ぶ保護者も多く見られます。

体育祭では、クラスごとにカラーポリ袋をキャラクターに見立てて作ったゼッケンを生徒たちが着るのが恒例になっており、保護者からも好評です。生徒が考えたダンス&準備体操や、先生が歌謡曲を歌ってくださるクイズ、仮装リレー、先生方のチームリレーなど、盛り沢山の内容に先生方と生徒の心の近さを感じました。まさに「繋」の三本松高校です。

このような姿を目の当たりにして、家庭だけではできない「心育て」を先生方にしていただけていることを痛切に実感しています。保護者もこの輪の中に加えてもらいたい！子どもたちのためにできることに取り組みたい！と考え、今年度初めて文化祭でPTAバザーを開催することに至りました。物品収集や販売会場の準備など先生方にもご協力いただき、役員は用品の値札付けや看板作りなど会員同士の輪も広がったようです。子どもたちのおかげで新しい人と繋がれた喜びが生まれました。

当日は、たくさんの地域の方や保護者の皆様にお越しいただきました。在校生をはじめ三高を思う卒業生の皆様からの物品提供があってこそのこの取り組みでしたので、たくさんの方々に助けられての成功は言うまでもありません。収益金は子どもたちのために役立てたいと考えています。

三高は、これまでの愛着ある校舎から、現在新校舎完成に向けて工事が進められているところです。建物は新しくなりますが、三高生の伝統を繋ごうとする心意気はこれからも繋がっていくと確信しています。

坂出商業高校

本校は、大正3年に創立され、幾多の変遷を経て平成26年に100周年を迎えました。

「誠実、勤勉、礼節」の校訓のもと、情報社会、ビジネス社会で活躍する「商業と情報のスペシャリスト」を目指して学習や部活動に励んでおります。中でも、12月商店街で開催する販売実習坂商フェア「セキレ」は今年で7年目を迎えます。このフェアは、文字通り商業の実務を実体験するのが目的で、生徒自ら仕入・販売・決算まで行います。教育の一環で、全校生徒総出で出資金方式により株式会社（模擬）を設立し、商店街のお店と一体化して営業します。日用雑貨などの物品販売はもちろん、B級グルメ、地域の特産品、食べ物、縁日、ゲーム、コンサートなどなど…。特価商品もたくさんあります。写真部・書道部・茶華道部・美術部などの文化部の活動展は坂出イオン1階の特設会場にて開催しています。販売する商品の中には、企業の皆様とワークショップを行い、新たに生み出した商品もあり、坂出ブランドに認定されるなど、高く評価されています。

生徒は将来「高級車に乗りたい」、「豪華な家に住みたい」など多くの夢を持っています。夢を実現する為に、「家業を継ぎたい」「自分でなにか新な商売を始めたい」。そんな風に思っている生徒も多くいます。特にお金や人脈やスキルなど、何もない人にとっては、始めようとしてもまず何が商売になるのか、どんな物が売れるのかを考えているうちに挫折しているのが現状です。その後押しを「セキレ」は担っています。

また、毎年10月に開催される「坂出地区高校PTA」親睦バレーボール大会では、保護者と先生方が一つの目標に向かって汗を流します。この親睦こそがPTAと学校を結び付けコミュニケーションをはかる上で最も重要な場と考えております。

市内の高校との合同行事は、他校のPTAの方との交流も図れ、地域の子供を育んでいく上での連携に繋がっていきます。

PTA活動は保護者だけではできません。教師・親がそれぞれ役割を果たし、地域の方々の協力があってこそ成り立っていくものだと思っています。

第66回 全国高等学校PTA連合会大会 千葉 大会報告

大会テーマ「再発見！愛」
～今こそ信じよう愛の絆～

8月25・26日、第66回全国高P連大会千葉大会が、幕張イベントホールを主会場に開催され、全国各地より約1万名、香川県からは36校70名が参加しました。

25日、開会式・表彰式の後、千葉敬愛短期大学学長　明石要一氏による『高校生の自立を支援するPTA活動の在り方』～今こそ信じよう高校生を～』と題した基調講演が行われました。先生はまず時代が変わり、高校生も変わった。例えば「ものごとを決める力が育っていない」「子どもの大人化が進んでいる」「自尊感情が低い」など。その課題には、家庭と学校と地域がそれぞれの力を発揮し協力して対応していく必要があり、具体的なヒントをお話しくださいました。

最後に、『三つの風（家風と校風）と一つの色（地域色）』を大切にしてほしい。家風を起こし、校風を盛り上げ、地域色を出す。このトライアングルにより、楽しくバラエティに富んだ活動をすることが出来ると述べられました。ユーモアたっぷりに会場を包み込むような話ぶりで、和やかな雰囲気の講演でした。

分科会は7会場に分かれて行われました。参加した「第2分科会」は、「進路指導とPTA」～再発見！愛　希望進路を実現する進路指導～というテーマで、4校より研究協議の発表がありました。宮城県仙台向山高等学校の進路学習「向陵プラン」の取り組み、栃木県立栃木高等学校の90%を超える驚異的なPTA総会出席率からの進路指導への効果、福井県立福井農林高等学校の産業界と連携された模擬面接の取り組みとグリーンメールによる学校と家庭のつながり、高知県立高知工業高等学校の探求型人材育成（イノベーションKT）の取り組み。どれも子どもたちの夢の実現に向けての学校・地域・家庭・産業界のそれぞれの役割、そしてそのつながり・連携を深めるアイデアに満ちあふれたものでした。この4校の発表は、私たちPTAが進路実現にどのように関わり、向かいあっていくべきかを考える機会となりました。

翌26日は、千葉市出身の女優　市原悦子氏の「私の選んだ女優の道」と題した記念公演がありました。自身の生い立ちから始まり、少々おてんばな少女が様々な出会いと修行を重ねて女優になったエピソードをユーモアまじえて語られました。また朗読は、一人舞台のような話しぶりで、言葉一つひとつに魂が宿っているようで、独特の世界観に引き込まれ、ゆるやかに時が流れるのを感じました。

公演後は分科会の報告に移り、各分科会を代表して全国高P連理事の代表者によるまとめを行いました。

続く閉会式では、千葉大会実行委員長より参加の皆様へ感謝の言葉が述べられ、次期開催地の静岡県へと高P連旗が引き継がれ盛況の中閉会しました。

本県泉会長が第2分科会の報告を担当

祝表彰

～おめでとうございます～

千葉大会において香川県より受賞された優良PTA文部科学大臣表彰、個人・団体表彰者（校）は、次のとおりです。

平成28年度 優良PTA文部科学大臣表彰団体

香川県立香川中央高校PTA

全国高P連会長表彰（個人）

（左）
小林　康則　氏
（香川中央高校前PTA会長）
単P副会長1年
単P会長2年
県高P連副会長2年

（右）
林　　周二　氏
（三本松高校前PTA会長）
単P会長1年
県高P連副会長1年

全国高P連会長表彰（団体）

（左）
香川県立
土庄高校PTA

（右）
香川県立
観音寺中央高校PTA

PTA NEWS

高P連より（一般財団法人香川県高等学校教育振興会主催）
第23回大学・専門学校訪問研修会の実施

期　日　平成28年10月14日（金）・15日（土）
訪問校　武庫川女子大学、関西学院大学、流通科学大学、神戸電子専門学校

全国高P連より
「平成28年熊本地震」義援金活動について（お礼とご報告）

全国のPTAから多くの善意が寄せられ、7月現在総額26,717,754円に達し、去る6月26日に開催された全国高P連定時総会において、2,600万円を九州地区PTA連合会に第1次配分として寄託しました。

全国高P連では、義援金の募金活動とその他の支援策についても今後継続していきます。

全国高P連より
「東日本大震災」義援金報告と募金活動の継続

平成27年度に寄せられた義援金は、総額2,731,795円に達しました。

去る6月26日に開催された全国高P連定時総会において、前期繰越差額を加えた270万円を福島県高P連に第8次配分として寄託しました。

全国高P連では、義援金の募金活動を継続します。

全国高P連より
「全国高P連賠償責任補償制度」の掛け金が平成29年度より改定されます。

改定額　300円→400円

今年度本県高P連総会でお知らせしましたとおり、懸案事項でありました標記制度掛け金が平成29年度より改定されることが平成28年度5月22日の全国高P連理事会において決定いたしました。

自転車事故を中心とする賠償事故の保険金支払いの高額化並びに事故発生頻度の増加等により収支が取れない状況が続いているためです。全国高P連としては、自転車の交通マナー等の啓発活動をとおして、事故削減に向けて引き続き取り組みをしていきます。

高校生総合保障制度
引受保険会社：AIU損害保険株式会社
〈担当代理店〉㈲アワード　TMG（トータルマネジメントグループ）　㈱アイネクスト